

令和 8 年 度 事 業 計 画

社 会 福 祉 法 人 淳 風 会
法 人 本 部

【1】法人運営方針

1. 基本方針：バックオフィス体制の強化と経営基盤の確立

当法人は、令和8年度において「バックオフィス体制の抜本的な強化」を最重点施策として掲げる。これまで歴代理事等から本部機能の強化や事務の効率化の必要性について指摘を受け、段階的に改善を図ってきたが、依然として経営層を含む組織全体の事務に対する意識には課題が残っている。社会福祉事業において現場専門職が重要であることは言及を待たないが、それらを支える事務職もまた、同等に重要な職種である。深刻化する人手不足の中で、専門職が本来の業務に専念できる環境を構築するためにも、事務職の果たすべき役割と期待は一層高まっている。

2. 現状の課題と改革の必要性

現在、バックオフィス業務が各拠点に分散していることにより、以下の課題が顕在化している。

業務品質の不安定さ：担当者の経験や知識に依存し、正確性や効率性にばらつきが生じている。

情報連携の非効率性：拠点間および法人本部との連携が滞り、二重管理や確認作業に多大な時間を要している。

制度改正への対応リスク：法人全体としての統制が不十分であり、社会福祉法人特有の制度改正への対応遅れや、解釈の齟齬が生じるリスクを抱えている。

業務の属人化とコストの不適正：特定の担当者への業務集中による停滞リスクに加え、拠点ごとの業務重複やITツール活用の遅れが懸念される。

ガバナンスの脆弱性：標準化されていない業務プロセスは内部統制を困難にし、監査対応や不正防止の観点でもリスクとなっている。

3. 法人本部事務局の創設と業務の一元化

これらの諸課題を抜本的に解決するため、法人本部内に「法人本部事務局」を創設し、バックオフィス業務を一元化する。施設長ではなく事務局長が主導し、専門的な判断に基づき事務執行を管理する体制へ移行することで、業務のスピードと正確性の向上、および法人ガバナンスの強化を実現する。

4. 段階的移行による組織変革

組織変更に伴う混乱やコミュニケーションの複雑化、各拠点の独自性の喪失といったデメリットを最小限に抑えるため、一律の変更ではなく、数年をかけた段階的な移行を行う。

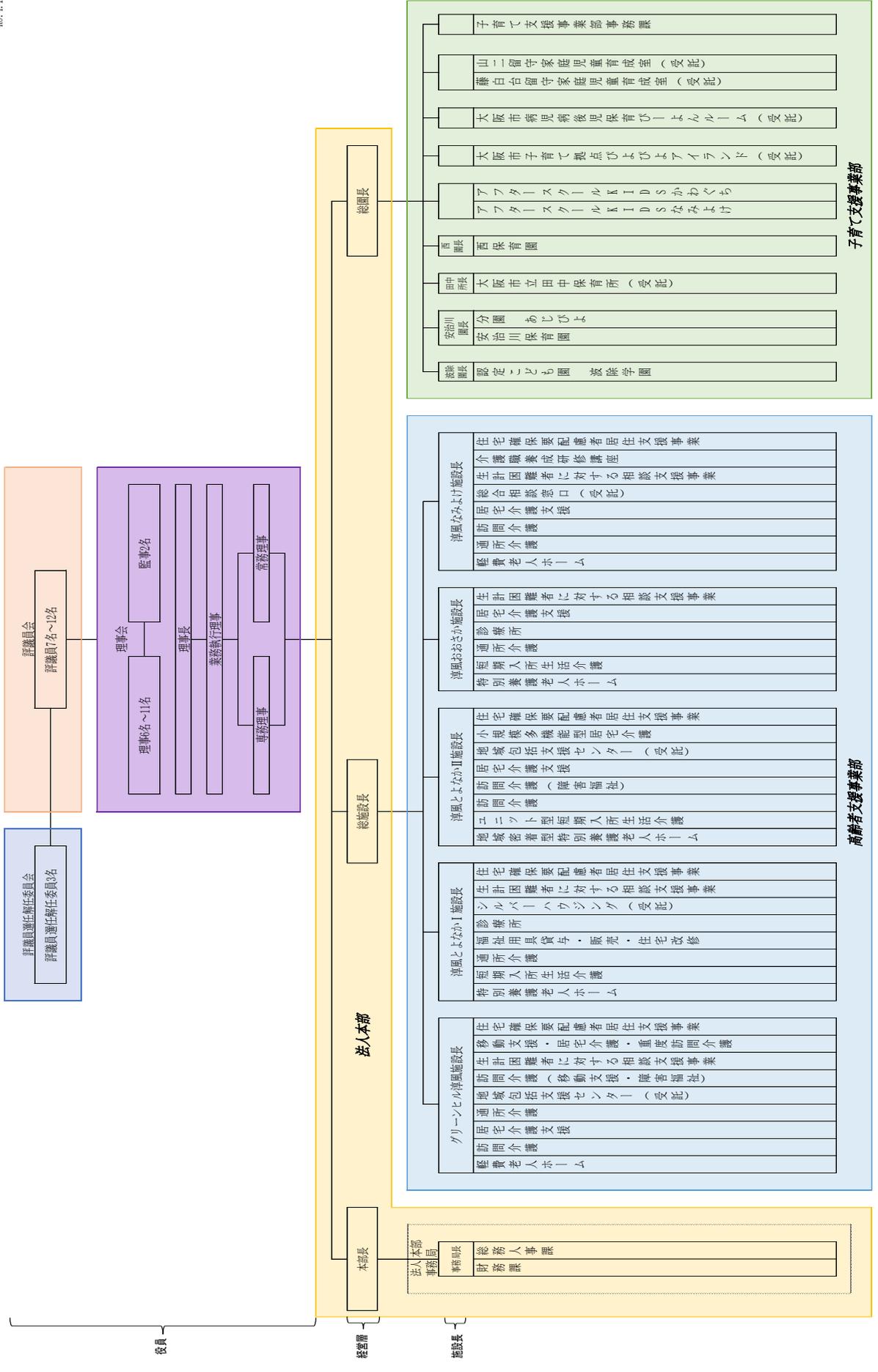
令和8年度（モデル事業期）：特定の拠点をモデル拠点として定め、事務機能を法人本部事務局へ先行して移行させる。

令和9年度以降（全拠点展開期）：モデル拠点での運用を通じて業務整理と効率化を徹底し、その成果を全拠点へ横展開することで、法人全体のバックオフィス業務一元化を完遂する。

※令和8年度法人組織体系

次頁に組織図記載

社会福祉法人淳風会 組織図



【2】法人本部運営方針

法人本部は、法人全体のガバナンスを統括するとともに、各事業部・各拠点が現場の専門業務に専念できるよう、戦略的な支援と環境整備を行う。

1. 経営基盤の安定とガバナンスの強化

法人本部事務局の創設に伴い、専門的な事務執行体制を確立し、法人全体の内部統制を強化する。

2. 情報共有と連携のハブ機能

拠点間の壁を取り払い、法人全体で情報を共有・活用できる仕組みを構築し、経営判断のスピードを向上させる。

【3】法人本部事務局運営方針

令和8年度は、法人本部事務局の創設初年度である。モデル拠点への事務集約を確実に成功させることを最優先とし、導入済みのクラウドツール・SaaSの定着と運用ルールの統一を通じて、「担当者依存しない事務体制」の基盤を構築する。これにより、事務職の専門性向上と現場専門職の負担軽減を同時に実現する。

現在の事務基盤の状況

事務局の創設に先立ち、以下のクラウドツール・SaaSは導入済みである。

令和8年度は「新規導入」ではなく、「定着・連携・横展開」のフェーズとして位置づける。

「導入済みシステム一覧」

【会計・経理】 PCA 会計・固定資産・法定調書、Bill One（請求書管理）

バクラクビジネスカード（法人クレジットカード）

【労務・人事】 ジョブカン勤怠管理（法人本部・高齢者支援事業部）、PCA 給与・人事管理、

オフィスステーション（社保手続き・雇用契約電子化・給与明細配信・年末調整）

面接ロボット（採用面接日程調整ツール）、LINE WORKS（現場職員との連絡ツール）

【基盤・連携】 Google Workspace、Google Cloud、AppSheet

desknet's NEO（グループウェア）

【文書管理】 Google Drive（共有文書管理）、PCA Hub eDOC（電子帳簿保存法対応）

1：モデル拠点の事務機能移行

令和8年4月から12月にかけて、モデル拠点の事務（経理・労務等）を法人本部事務局に移行する。移行過程において、モデル拠点と密に連携しながら以下を実施する。

(1) 事務局と拠点の業務分掌の策定（責任の所在の明確化）

(2) 移行対象業務の棚卸しと手順書の整備

(3) 拠点常駐を前提としない遠隔での業務遂行体制の検証

令和9年1月に移行の評価を実施し、課題の洗い出しと改善策の検討を行った上で、令和9年度の全拠点展開の可否と方法を決定する。

2：導入済みツールの定着と運用ルールの一

モデル拠点の移行と並行して、全拠点を対象に以下を推進する。

- (1) 拠点ごとのローカルルールの廃止と業務プロセスの標準化・可視化
- (2) 導入済み SaaS・クラウドツールの運用ルールの法人統一
- (3) 属人化の排除（担当者が不在でも業務が停止しない体制の構築）

※ 新規ツールの導入ではなく、既存ツールの「正しい使い方の統一」に注力する。

3：デジタル基盤の整備

クラウドツールを基盤として、拠点に常駐せずとも業務が完結する環境を整備する。これは遠隔拠点の事務サポート体制の構築であると同時に、災害時の事業継続（BCP）の基盤でもある。

あわせて、財務データ等の経営指標をリアルタイムで共有できるダッシュボードの試行運用を開始し、経営層が会議に出席できない場合でも経営判断に必要な情報へアクセスできる仕組みを構築する。

財務課の取組み～基本方針：「ペーパーレス・キャッシュレス」の推進

既存システム（PCA 会計、Google Workspace、バクラクビジネスカード、AI-OCR）を最大限活用し、「特定の担当者しかできない作業」から「誰でも遂行可能なフロー」への転換を図る。

①データ保管ルールの統一

担当者ごとに異なるデータ保管方法を整理し、全拠点共通のディレクトリ構造（データフォルダの階層構造）を構築する。必要なデータ・証憑に誰でも即座にアクセスできる「見ればわかる」環境を整備する。これは監査対応の迅速化にも直結する。

②スキャナ保存の定着と展開準備

導入済み拠点（淳風とよなかⅠ・Ⅱ、淳風おおさか）において電子帳簿保存法に対応した運用を定着させる。他拠点への展開に向けた課題整理を行い、必要な証憑に必要な担当者が即時にアクセスできる状態を目指す。

③経費精算業務のデジタル化とキャッシュレス化

バクラクビジネスカードの活用拡大により、申請から仕訳までをシステム上で完結させる。AI 仕訳機能を活用し、会計処理の省力化を図る。
小口現金の取扱いを段階的に縮小し、キャッシュレス化を推進する。

総務人事課の取組み～基本方針：ペーパーレス化を起点とした総務人事業務の可視化

オフィスステーション・PCA 給与・ジョブカン等のクラウドツールは導入済みであり、社会保険手続き・雇用契約の電子化・給与明細配信・年末調整のクラウド化は完了している。令和 8 年度は残存する紙業務の解消と、モデル拠点移行に伴う業務の整理に取り組む。

①残存する紙業務の解消

紙で管理している帳票・書類を洗い出し、優先順位をつけてデジタル化を進める。使用頻度が高く、かつデジタル化の効果が大きい書類から着手する。

②モデル拠点移行に伴う労務業務の整理

モデル拠点の事務移行に伴い、労務関連業務（勤怠管理、入退社手続き等）の現行フローを棚卸しし、事務局で処理すべき業務と拠点に残す業務を整理する。

令和 8 年 度 事 業 計 画

社 会 福 祉 法 人 淳 風 会

高 齢 者 支 援 事 業 部

グ リ ー ン ヒ ル 淳 風

淳 風 と よ な か I

淳 風 と よ な か II

淳 風 お お さ か

淳 風 な み よ け

令和8年度 高齢者支援事業部 運営方針

1. 拠点連携の深化による「一体運営」の推進と経営基盤の強化

(1) 拠点間・事業所間のシナジー最大化

事業所間の利用者紹介促進や、拠点間の重複エリアの利用者共有、送迎効率化等を取り入れ、法人一体でサービスを提供することで、稼働率の向上と経営の安定化を図る。

(2) 拠点、職種を超えた横断的なコミュニケーションの活性化

事例発表会や法人横断会議等を通じて事業所間の理解を深め、法人内連携の成果を数値化して適正な事業所評価に繋げる。

(3) ガバナンス強化と次世代を育てる組織の再構築

管理者業務を標準化し、事業部のガバナンスを強化させると同時に、次世代の管理者及び施設長候補となる人材を組織で育成する。

2. 業務プロセスの共通化と効率化による持続可能な運営体制の確立

(1) 介護テクノロジーの活用による業務の「見える化」と「簡素化」の徹底

介護ロボットやAIを積極的に活用し、業務内容を可視化・効率化することを法人の意思と示し、介護現場での実施を徹底する。

(2) 多様な人材が活躍できるワークフローの整備

外国人スタッフや未経験者、単発バイトにも理解しやすいように、業務マニュアルを刷新し、誰にとっても働きやすい環境を構築する。

(3) BCP（事業継続計画）を軸とした地域住民との信頼構築

地域との繋がりを意識したBCPを策定し、地域住民との信頼関係と深化させる。

3. 人材育成・評価制度の充実と健康増進による定着率の向上

(1) キャリアパスと連動した公正な評価・給与体系の構築。

個人及び事業所の評価とキャリアパスが連動した報酬・給与体系を構築し、成果と努力が報われる透明性の高い人事制度を令和9年度に開始できるように準備する。

(2) 「教育部門」の新設と階層別研修の体系化

介護技術向上を目的とした教育担当者を配置し、新卒・若手（2～3年目）のフォローアップから外国人の資格取得支援まで、計画的に育成するプログラムを作成、実施する。

(3) 職員の元気につながる健康環境の整備

腰痛予防対策の徹底やメンタルヘルスケアの充実、ワークライフバランスの適正化を図り、質の高いケアが持続的に提供できるように、職員一人ひとりが心身ともに健康で長く働き続けられる職場環境を整備する。

4. 地域共生活動の展開による、信頼される「淳風会ブランド」の構築

(1) 「淳風会らしさ」の継承と理念の再浸透

法人の歴史と先人の想いを振り返り、ITや介護ロボット活用の中でも失われない「開設当初の淳風会らしさ」の核となる理念を全職員で再共有し、サービスに反映させる。

(2) 協働化と介護保険外サービスの拡充

「地域共生」をキーワードに、周辺施設との協働化を図りつつ、介護保険外サービスを拡充し、歴史ある法人ならではの付加価値を創出する。

(3) 地域に開かれた教育・貢献活動の展開

一般住民や介護経験者向けの技術指導、インターンシップ等の魅力発信を通じて、地域貢献と将来的な人材確保（採用ブランディング）を同時に実現する。

令和8年度 グリーンヒル淳風事業計画

- ・ ケアハウスグリーンヒル淳風
- ・ 訪問介護サービスグリーンヒル淳風
- ・ 訪問介護サービス（障害福祉）グリーンヒル淳風
- ・ 訪問介護サービス（移動支援）グリーンヒル淳風
- ・ 居宅介護支援事業所グリーンヒル淳風
- ・ グリーンヒル淳風デイサービスセンター
- ・ 寝屋川市第六中学校区地域包括支援センター
- ・ 生計困難者に対する相談支援事業グリーンヒル淳風
- ・ 相談支援事業グリーンヒル淳風

I. 令和8年度のグリーンヒル淳風全体目標

1、事業所の相互理解の強化と役割の明確化

部署間連携を強化し、互いの事業内容や役割への相互理解を深める。ご利用者のニーズやサービス内容を共有し、スピード感のある相談・対応を可能にするための役割分担を明確化すると共に「法人一体型」の視点を全スタッフが意識し、ご入居者・ご利用者の生活の質の向上に努める。

2、地域貢献活動の強化と地域共生

地域に求められる施設として、地域との垣根をなくし、施設側から積極的に参画する意識を持って住民との信頼関係を強化する。具体的には、地域に点在する課題に対し、解決に向けた小規模なネットワーク構築を仕掛け、助け合いの精神を基盤とした、住民との「顔の見える関係」を築く。

3、働きやすい職場環境の構築と業務効率化の拡充

多種多様な人材が活躍できるよう、ICT活用による業務の簡素化・効率化を推進し、働きやすい環境を構築する。業務マニュアルの明確化により、職員の交代に関わらず安定した運営を維持すると共に、互いに感謝の気持ちを持ち「働く楽しさ」を実感できる職場づくりを追求する。

II. 各事業の目標

(1) ケアハウス

①目標入居者数

内 容	令和7年度実績 月平均（12月末迄）	令和8年度 年間目標数値（月）
入居者数（月末総数）	47.2名	49.0名

月末入居者数：49名（稼働率98%）を目標。

②業務目標

- ・ 法人のブランド力を活かした地域連携と、有料老人ホームに劣らない知名度向上を推進する。
- ・ 安心な暮らしの継続に向け、既存サービスの連携強化と新たな保険外サービスの体制整備を加速させる。
- ・ 相談員の専門性向上により満床を維持し、全スタッフでお客様を温かく迎え入れる姿勢を徹底する。

(2) 訪問介護

①目標提供時間及び利用者数

内 容	令和7年度実績 月平均 (12月末迄)	令和8年度 月目標数値
派遣時間 (月平均)	961 : 01 時間	1000 時間
実利用者数 (月平均)	121.9 名	120 名

目標サービス提供時間：1,000 時間／月を目標。

②業務目標

- ・制度改定を注視しつつ、自費サービスの拡充やニーズに応えるための事業構造改革に取り組む。
- ・介護福祉士の専門性を活かすため、継続的な研修により個々の技術・知識のさらなる向上を図る。
- ・他事業所と連携してヘルパー不足等の課題を共有し、必要な時には協力しあう広域的なネットワークを構築する。

(3) 通所介護

①目標稼働率及び利用者数

内 容	令和7年度実績 月平均 (12月末迄)	令和8年度 月目標数値
一日の平均稼働率	91.1%	90.0%
平均実利用者数 (月平均)	29.0 名	30.0 名
延べ利用者数 (月平均)	236.7 名	230.0 名

稼働率 90%、月の延べ利用者数 230 名を目標。

②業務目標

- ・業務マニュアルを刷新・標準化し、多様な人材がミスなく円滑に働ける職場環境を整える。
- ・訓練成果を数値などで「見える化」し、利用者がメリットを実感できるプログラムを提供する。
- ・ルーティン化した業務より利用者ニーズを優先し、職員の活気にもつながる、満足度の高いサービスの提供を目指す。

(4) 居宅介護支援

①目標契約者数 (実働数)

内 容	令和7年度実績 月平均 (12月末迄)	令和8年度上期 月目標数値	令和8年度下期 月目標数値
ケアプラン作成数 () 内は要支援者	85.9 件 (51.3 件)	100 件 (90 件)	120 件 (90 件)
一人当たりの担当者数 (月平均)	27.9 件	32.5 件	37.5 件

※令和8年度実績より3で除した件数を目標とする。

②業務目標

- ・自法人サービスであるケアハウス、デイ、訪問介護との連携を深め、サービスの質の向上と契約件数の拡大を図る。
- ・的確なニーズ分析とアセスメント能力を磨き、満足度の高い支援を追求する。
- ・医療機関等へのこまめな訪問を徹底し、地域における信頼に基づいた「顔の見える関係」を築く。

(5) 地域包括支援センター

①目標契約者数

内 容	令和7年度実績 月平均 (12月末迄)	令和8年度 月目標数値
直轄プラン (3職種)	36.6件	40.0件
予防プランナー	62.4件	65.0件
収入目標 (月平均)	2,649,360円	2,600,000円

直轄プラン：3職種 40件/月 予防プランナー65件/月

訪問指導及び自立支援型地域ケア会議、住宅改修理由書作成料：25,000円/月

収入目標：2,600,000円/月

②業務目標

- ・地域課題を分析し、住民と協力してミニマムなネットワーク作りを行い、地域共生社会の基礎づくりを行う。
- ・多世代共生のため、会議参画や広報、商業施設を巻き込んだ認知症啓発活動に積極的に取り組む。
- ・全世代が生き生きと暮らせるよう、「助け合い」「支え合い」を促す相談窓口になれるよう、地域活動に参画する。

令和8年度 淳風とよなか I 事業計画

- ・ 特別養護老人ホーム 淳風とよなか
- ・ 淳風とよなかショートステイ
- ・ 淳風とよなかデイサービスセンター
- ・ 淳風とよなか診療所
- ・ 福祉用具淳風きたじょう（福祉用具貸与）
- ・ 福祉用具淳風きたじょう（特定福祉用具販売）
- ・ 島江シルバーハウジング
- ・ 生活困難者に対する相談支援事業 淳風とよなか

I. 令和8年度 淳風とよなか I 全体目標

1、安定した収入による事業の運営

- ・ 拠点間の連携強化により、隙間を発生させない先々を見据えた営業戦略の展開
- ・ 介護保険外収益の確保と収益増

2、視野を広げ自信に繋げる職場づくり

- ・ 法人間横断会議の積極開催による一体的運営の推進と職員間の相互理解の深める
- ・ 外部交流や事例発表による自己肯定感の向上と、淳風会の価値再共有

3、本来の専門業務に専念できる環境整備

- ・ ICT・介護ロボットの導入と現場へのスムーズな定着による、事務作業・会議の効率化
- ・ 多様な人材（外国人・未経験者等）が即戦力として活躍できるワークフローの整備

4、人材育成の強化

- ・ キャリアパス制度と連動した公正な評価の準備と、自己研鑽へのフォローアップ
- ・ 「認知症ケア」「医療的ケア」の更なる拡充による、専門性の高いケア体制の構築

5、地域と連携した災害時対応力の向上

- ・ 地域住民を巻き込んだ実効性のある BCP 訓練の実施
- ・ 地域住民との協力関係強化

II. 各事業の目標

(1) 特別養護老人ホーム

- ・ 目標稼働率：96.28%、ショートステイ：110.09%、合算：97.62%
- ・ 空床を積極的に活用した緊急受入など、地域のニーズに即応する体制を構築する
- ・ 介護ロボット・AI を活用して業務を簡素化し、外国人や未経験者でも即戦力として働けるマニュアル整備と方針統一を図る
- ・ ヒヤリハットの多角的分析による事故防止と、季節ごとの健康管理（脱水・誤嚥予防）の徹底
- ・ 協力医療機関と連携を強化し、入院期間の短縮に努める

(2) 短期入所生活介護

- ・ 短期7床のうち6床を長期利用枠として稼働する。空床の積極活用により地域ニーズ（緊急受入等）に即応する
- ・ 長期利用枠の割合については拡充の可能性を視野に入れ体制整備を図る

(3) 通所介護

- ・ 目標稼働率（前期）90.0% （後期）93.5%
- ・ 月10件の居宅訪問や SNS・HP での空き情報・活動内容の発信により、新規利用者を

継続的に獲得できるように営業活動を行う

- ・全職員がアセスメントと計画作成に関わり、加算算定への意識を高める
- ・特養併設の強みを活かし、重度・医療ニーズへの受入体制を強化する
- ・月1個以上の新規レク開発に加え、個人制作や疾患別プログラムなど、ご利用者一人ひとりのニーズに応える魅力あるサービスを提供する

(4) 診療所

- ・職員の観察力・判断力を磨き、全てのケアに「優しさ」と「安心・安全」を大切に
する
- ・多職種連携による看取り介護の充実、医療依存度の高い方へのケア強化
- ・MCS（情報共有ツール）を活用し、介護職や外部医療機関と連携し重度在宅サービス
ご利用者への支援を行う

(5) 福祉用具貸与・販売

- ・目標売上額
- ・福祉用具貸与：月額 470 万円～485 万円（一般含む）
- ・福祉用具販売：月額 25 万円～30 万円（一般含む）
- ・住宅改修：月額 10 万円
- ・総合計：月額 540 万円～545 万円の売上維持・拡大
- ・ご利用者の ADL 変化をいち早く察知し、自立支援に最適な用具をタイムリーに提案
する

(6) シルバーハウジング

- ・ICT を活用しつつ、顔の見える関係を大切にした安否確認の実施

(7) 生活困窮者レスキュー事業

- ・地域で支援を必要としている方々のニーズに幅広く応え、セーフティネットとして
の役割を果たす

III. 総務

(1) 労務・経理

- ・令和9年度の業務一元化（バックオフィス統合）を見据え、新体制への理解促進と
スムーズな移行準備を行う
- ・正確な収支管理を行い、財務基盤を支えることで、最終的にご利用者と職員の「幸
せ」に繋がる業務を維持・遂行する

(2) 庶務

- ・防災体制（BCP）の実効性向上のため、地域（庄内西自主防災会等）との連携を例年
以上に強化し、マニュアル更新と実践的な訓練を継続して、災害に強い施設づくり
を推進する
- ・本館・新館の老朽化に対し、優先順位をつけた計画的な修繕・設備更新を行い、物
価高騰下でもコスト意識を持った備品管理を徹底する

IV. 栄養室

- ・厨房内の業務動線や手順を常に見直し、作業効率を高めつつ、安心・安全で美味し
い食事を安定して提供し続ける
- ・食を通じた多世代交流イベントへの支援を継続し、地域の繋がり場を支える

令和8年度 淳風とよなかⅡ事業計画

- ・地域密着型特別養護老人ホーム淳風とよなか
- ・ユニット型淳風とよなかショートステイ
- ・居宅介護支援事業所淳風とよなか
- ・豊中市庄内地域包括支援センター
- ・訪問介護サービス淳風とよなか
- ・訪問介護サービス（障害福祉）淳風とよなか
- ・小規模多機能ホーム淳風ふたば

I 令和8年度 淳風とよなかⅡ全体目標

1、安定した収入による事業の運営

- ・拠点間の連携強化により、隙間を発生させない先々を見据えた営業戦略の展開
- ・介護保険外収益の確保と収益増

2、視野を広げ自信に繋げる職場づくり

- ・法人間横断会議の積極開催による一体的運営の推進と、職員間の相互理解を深める
- ・外部交流や事例発表を通じた自己肯定感の向上と、淳風会の価値再共有

3、本来の専門業務に専念できる環境整備

- ・ICT・介護ロボットの導入と現場へのスムーズな定着による、事務作業・会議の効率化
- ・多様な人材（外国人・未経験者等）が即戦力として活躍できるワークフローの整備

4、人財育成の強化

- ・キャリアパス制度と連動した公正な評価の準備と、自己研鑽へのフォローアップ
- ・「認知症ケア」「医療的ケア」の更なる拡充による、専門性の高いケア体制の構築

5、地域と連携した災害時対応力の向上

- ・地域住民を巻き込んだ実効性のあるBCP訓練の実施
- ・地域住民との協力関係強化

II、各事業の目標

(1) 地域密着型特別養護老人ホーム

- ・目標稼働率 97.5%（単体）、98.3%（短期入所との合算）
- ・介護ロボット・AIを活用して業務を簡素化し、外国人や未経験者でも即戦力として働けるマニュアル整備と方針統一を図る
- ・「認知症ケア」「医療的ケア」「ユニットケア」の追求

(2) ユニット型短期入所生活介護

- ・目標稼働率 101.0%
- ・長期利用枠を主軸に短期利用枠1床を維持しつつ、本館と一体的な管理をし、空床の積極活用により地域ニーズ（緊急受入等）に即応する。
- ・長期利用中心の体制から短期利用枠を増やし、地域のニーズに柔軟な対応ができる様、拡充に向けて体制整備に取り組む

(3) 訪問介護

- ・目標提供時間 上期平均 1,425 時間/月、下期平均 1,500 時間/月
(新規契約者数 介護サービス 7名/月、自費サービス 3名/月)
- ・相談役、指導役としてヘルパーを支援するサービス提供責任者の育成。

(個別面談 1 回/月)

- ・ 保険外サービスの拡充。(訪問営業 : 3 件/月 新チラシ作成 : 1 件/月)

(4) 小規模多機能居宅介護

- ・ 目標契約数 25 件 稼働率 86%
- ・ 小規模多機能の周知、集客を目的とした地域貢献活動や見学会の実施。
- ・ 日常の業務の送迎や訪問などの効率化、業務内容を可視化し、誰にとっても働きやすい環境の構築。
- ・ 地域ニーズと自治体の意向を踏まえ、事業継続への再編計画を検討する。

(5) 居宅介護支援

- ・ 目標契約者数
一人あたり介護 35 件・予防 7 件 (管理者は介護 28 件、予防 7 件)
- ・ 介護支援専門員の継続的な増員。(目標 : 期末 7 名以上)
- ・ 自法人事業所との連携強化、紹介促進を図る。(目標値 50%)
- ・ 他法人も含む合同研修、勉強会の企画、開催し、交流の活性化を図り、個々の視野を広げる。
- ・ 自施設と連携した、実効性のある B C P 訓練の実施。

(6) 地域包括支援センター

- ・ 目標契約数 (直担当)
管理者、分室リーダー 5 件
保健師、看護師 7 件
社会福祉士、主任介護支援専門員 10 件
プランナー 50 件
- ・ 介護予防の普及啓発。地域住民が地域資源情報にアクセスしやすい環境整備。
- ・ 包括支援センターの再周知×アウトリーチの促進。
- ・ 認知症サポーター講座の強化、現在あるそれぞれの支援団体をつなぎ、地域力向上を推進させる。
- ・ 令和 10 年度の分室移転時に地域住民のニーズに即した対応ができるように、また、淳風会としてのビジョンが打ち出せるように、情報収集、住民及び行政との関係づくりに取り組む。

令和8年度 淳風おおさか事業計画

- ・ 特別養護老人ホーム淳風おおさか
- ・ 淳風おおさかショートステイ
- ・ 淳風おおさかデイサービスセンター
- ・ 居宅介護支援事業所淳風おおさか
- ・ 生計困難者に対する相談支援事業淳風おおさか

I. 令和8年度 淳風おおさか全体目標

1、組織体系の再構築

- ・ 役職、職種ごとの権限と役割の明確化を図り、現場の判断スピードを改善する。

2、拠点間連携

- ・ 待機者情報と空床情報を拠点間で共有し、法人全体で入居調整できる体制づくりを行う。

3、メンタルヘルスケアに対する取り組み

- ・ 管理者による残業時間の把握と、ラインケア導入に向けた検討を行う。

4、業務の標準化と記録業務の効率化

- ・ AI や音声入力を活用したマニュアルを整備し、記録業務の効率化を図る。
- ・ ケアキャリア支援担当者と協働により、新人、外国人、未経験者向け共通マニュアルを整備する。

5、地域活動と災害対策

- ・ 町会活動へ積極的に参加し、顔の見える関係づくりを行う。
- ・ BCP 訓練や避難訓練と連動した備蓄品の点検、更新を図る。

6、実習生、インターンシップの積極的受け入れ

- ・ 体験、見学プログラムの見直しを行い、職員教育の一環として、専門職の経験や知見を伝える場を設ける。

II. 各事業の目標

(1) 特別養護老人ホーム

- ・ 稼働率：96.6% 合算：97.8%
- ・ 眠りスキャンを試行し、夜間巡回の負担軽減と事故防止効果を検証する。
- ・ 多職種がチームで家族対応を評価・共有する仕組みを構築し、相談員やケアマネジャーの属人的な対応を解消する。

(2) 短期入所生活介護（介護予防含む）

- ・ 稼働率：110% 合算：97.8%
- ・ 申込から利用までの手順を簡略化し、ご利用者とケアマネの負担軽減を図る。
- ・ 入院やキャンセル等の突発的な空室にも対応できる、即時連絡体制を整備する。

(3) 通所介護（総合事業含む）

- ・ 一日平均：32名
- ・ 稼働率：84.2%
- ・ 実利用者数：105名/月
- ・ 新規利用者数：3名/月

- ・ワクレク（労働レクリエーション）の認知拡大を図り、営業活動に活用する。
- ・多職種連携による口腔機能訓練の提供体制を整備し口腔機能改善加算算定率80%以上を目指す。

（４）居宅介護支援

- ・目標実績：介護142件、予防84件
一人あたり目標：介護29件・予防18件（管理者は介護26件・予防12件）
- ・新規契約：介護4件・予防2件/月
- ・新規エリア拡大に向け、淀川区東部地域包括支援センターから予防支援の受け入れを強化する。
- ・法人内サービスの不成立要因を分析し、定期的に各事業所へフィードバックを行う。

Ⅲ. 総務

（１）庶務

- ・ドライバーと添乗員に対する安全運転教育を年2回以上実施する。
- ・館内の美化と設備の保守点検を徹底する。

（２）事務・労務

手書き申請、転記による二重入力をデジタル化し、効率化を図る。

Ⅳ. 栄養室

- ・配膳や下膳の手順を見直し現場職員と委託業者双方の作業負担を軽減する。
- ・将来的な体制変更も見据え、完調品導入に向けた検討を行う。

Ⅴ. 診療所

- ・定期予防接種を確実に実施し、施設内の感染症の発生とまん延を防止する。

Ⅵ. 生活困窮者レスキュー事業

- ・関係機関と連携したコミュニティーソーシャルワークと居住支援相談を実施する。

令和8年度 淳風なみよけ事業計画

- ・ ケアハウスなみよけ
- ・ 市岡東在宅サービスステーションさくら
- ・ ケアプランセンター波除さくら
- ・ ホームヘルプセンターさくら
- ・ 市岡東地域総合相談窓口
- ・ 生計困難者に対する相談支援事業なみよけ

I. 令和8年度 淳風なみよけ全体目標

1、働きやすい職場環境と人材育成

- ・ 管理者の属人化を改善していく為、管理者しか知らない手順をマニュアル化して共有のうえ、管理者の業務見える化と業務分担を進めていく。
- ・ フィードバック面談や施設長面談や職場環境に関するアンケートを通じて、職員一人ひとりの潜在的な意見を早期に吸い上げ、職員離職率の低下を目指していく。

2、事業所間及び拠点における連携強化

- ・ 日頃行っている事業所間の連携と協力体制を、改めて職員全員で意識してもらい、更なるサービスの質向上につなげられるよう、合同事例発表会を実施する。
- ・ 法人ならではの拠点横断を活かして、サービス支援、人材育成、業務改善をテーマとした情報交換の活性化を図り、サービス提供を「自施設完結」から「拠点連携」へ転換していく。

3、互いに支え合える地域との関係構築

- ・ 施設を「地域資源」として活用してもらうために、地域サロン、百歳体操、映画鑑賞会など、利用者を含む地域の高齢者が気軽に交流できる場を提供していく。
- ・ ボランティアの受け入れ、地域活動の参加を通じて、コロナ禍から永く続いた閉鎖的な施設イメージを「開かれた場所」に戻していく。

II. 各事業の目標

(1) ケアハウス

- ・ 目標稼働率
上半期 月初入居者数：28名（27世帯） 稼働率：93%
下半期 月初入居者数：29名（27世帯） 稼働率：96%
- ・ 近隣区内の医療機関や地域包括支援センターなどへの定期的な訪問及び定期的な施設見学会と計画的なチラシ配布を行い、常に入居待機者3名の確保を図る。
- ・ できるだけ長くご入居頂けるように、定期的な体操教室、健康相談、懇談会や交流機会開催に引きこもり防止など施設サービスの充実を図り、訪問看護、訪問介護などの医療サービスとの連携を強化し、体の変化や病気の早期発見を心掛ける。

(2) 地域総合相談窓口

- ・ 目標件数
総合相談実件数（年間）：120件 総合相談延べ件数（年間）：600件
- ・ 地域に根差した相談機関として、地域の行事や出張相談会を積極的に実施、支援のネットワーク構築を進めていく。
- ・ 多様化する相談やニーズに迅速に対応し、「あそこに相談すれば、何とかしてくれる」という安心感と存在感を広めていく。

(3) 居宅介護支援

- ・ 目標契約者数
上半期 介護：215件／月 ・ 予防：90件／月
下半期 介護：230件／月 ・ 予防：90件／月
- ・ 法人内の各事業所との連携強化を図り、法人全体で一体的なサービスを提供することで、ご利用

用者の満足度アップと安定的な事業運営に貢献する。

- ・心身ともに働きやすい環境の配慮と業務負担の偏りを改善のうえで、長く勤められる環境を整えていく。
- ・自主的に行っているケアプランチェックを OJT として機能させる。また、新入職員には介護 10 件程度からスタートさせる「ステップアップ型育成」を導入していく。

(4) 通所介護

- ・目標稼働率
上期 稼働率：65% 実利用者数（月平均）：100 名 延べ利用者数(月平均)：780 名
下期 稼働率：70% 実利用者数（月平均）：105 名 延べ利用者数(月平均)：840 名
- ・機能訓練指導員による個別機能訓練に加え、介護職員による集団機能訓練が安定して実施できる体制を整え、利用者の意欲向上を図ると同時に加算算定率の向上を図る。
- ・安定した稼働率確保に向け、各居宅介護支援事業所への営業ツール（パンフレット、SNS 投稿、ファックス、メール一斉送信など）の整備を図る。
- ・音声入力や移乗支援ロボット等の活用効果を定期評価し、事務負担の軽減と直接処遇の質の向上を両立させる、職員が心身ともに余裕を持って働ける環境を目指す。

(5) 訪問介護

- ・目標提供時間
上期 サービス提供時間：900 時間／月 実利用者数：110 名／月
下期 サービス提供時間：950 時間／月 実利用者数：120 名／月
- ・サービス提供責任者のヘルパー指導力の向上を図る。
- ・利用者状況に応じて、法人内事業所との情報共有と連携強化を図る。
- ・百貨店での買物サービスや旅行の付き添いなど、「個別の楽しみ」に焦点を当てたサービスをケアハウスと共同開発し、介護保険外（自費）サービスの拡充を図る。

淳風会 高齢者支援事業部 中期計画 一覧表

施設名	2024年度作業		概要見積額 2024年度	2025年度作業		概要見積額 2025年度	2026年度作業		概要見積額 2026年度	2027年度作業		概要見積額 2027年度	2028年度以降	
	内訳	見積書		内訳	見積書		内訳	見積書		内訳	見積書		内訳	見積書
1 高齢者支援事業部全体														
2 グリーンヒル淳風	ナースコール入替	2,000,000	経年による雑音、音 声不具合が時折あ り、年式も古くなり 修理部品の調達が困 難な可能性あり。	車庫入替 (モビロ・ムーフ)	4,000,000	各車庫整備に切り替 え、新規購入は次年 度に予定。	消防設備関係	600,000	600,000	ナースコール更新	3,000,000			
3 淳風とよなかI	外観ペンタ14台 入替	4,500,000	開設当初から使用	エレベーター 修繕 (1号機)	880,000	次年度持ち越し	業務用乾燥機 入替	1,500,000	1,500,000	電話機器見直し	3,000,000			
	業務用乾燥機 入替	1,400,000	開設から使用	車庫入替 (キヤラバン)	4,000,000	乗年数を超えてお り、入替を行う状況 にある為。	厨房給湯機入替	1,000,000	1,000,000	本館電子錠本体入 替	1,980,000			3,000,000
4 淳風とよなかII	補助散水栓取り換 え工事	1,000,000	中庭設置の散水栓よ り底敷な水漏れ	業務用乾燥機 入替	1,500,000	開設から使用	1階～4階 内装改修工事開 始(1期目)	10,000,000	12,500,000	1階～4階 内装改修工事関係 (2期目)	10,000,000			10,000,000
	眠りスキヤン(65 台)増設	5,990,000	補助金で導入	業務用乾燥機 入替	1,000,000	次年度持ち越し	眠りスキヤン (20台)増設	1,900,000	1,900,000	1階～4階 内装改修工事関係 (3期目)	10,000,000			9,000,000
5 淳風おおさか	眠りスキヤン(20 台)増設	1,600,000	次年度持ち越し	眠りスキヤン (20台)増設	1,900,000	次年度持ち越し	外壁修理	33,000,000		外壁タイラ法定検査				500,000
	小規模多機能 リフトバス	1,400,000	補助金で導入検討	パソコン入れ替 え(約7台)(集 経マイゼンズ移行 含む)	4,700,000	Windows11対応	給湯ボイラー	10,000,000		給湯ボイラー	10,000,000			4,000,000
6 淳風なみよけ	車庫入替	4,000,000	IKA申請(補助金 2,500千円を見込 む)又は自費購入	給湯ボイラー	10,000,000	次年度に持ち越し	8号車入替			リース(5万円/月) 予定(購入は230 万円)	0			1,000,000
	複合機入替	1,100,000	老朽化による入替	車庫入替	2,300,000	令和8年度に持ち越 し	電子錠システム	600,000		基礎はそのまま使用 電子錠3か所、 3キー交換	600,000			600,000
7 淳風おさか	消防設備 (自水報警) 淳風寺と合同	18,700,000		電子錠システム	1,000,000	次年度に持ち越し	放送設備	300,000		スピーカー経年劣化 2階放送が聞こえな い状況	300,000			700,000
	見守りシステム	9,923,000	IKA申請(補助金 7,422千円を見込 む)	非常灯	4,500,000		自家発電機更新	6,500,000		定期点検にて交換が 必要な現状	6,500,000			1,000,000
8 淳風なみよけ	トイレ機器	4,294,000	IKA申請(補助金571 千円を見込む)	消防設備(屋上補 給水槽・非常用照 明・バスマテリ 等)交換	4,800,000	定期設備点検での不 具合報告あり、消防 法による修繕要。	屋上ガス温水ヒー ター	2,000,000		経年劣化と制御盤マ イコン生産の中止に 伴い、新規交換予 定。	2,000,000			700,000
	外壁塗装工事 (残)	42,000,000		ライナーリフト更 新工事	3,000,000	中古	特殊浴槽設置	3,200,000		アイリフト浴槽の経 年から新規導入	3,200,000			1,000,000
9 淳風なみよけ	PC入替	2,000,000		自家発電機更新	6,500,000									
10 合計		93,307,000			54,080,000				70,600,000					32,080,000

令和 8 年度 事業計画

社会福祉法人 淳風会
子育て支援事業部
波除学園
安治川保育園
田中保育園
西保保育園
アフタースクール KIDS
病児保育室
つどいの広場
吹田市留守家庭児童育成室

令和8年度 子育て支援事業部 運営方針

共通重点項目

1. 業務遂行

- (1) 子どもの最善の利益を念頭に、今年度も常に愛情あるかかわりと誠実な保護者対応、地域への環境保全を心がけ、安心して利用できる施設運営を行っていく。
- (2) 法人理念に基づき、子育て支援事業部運営方針・保育運営方針・職員行動指針を策定している。それらを具体化した各種計画やマニュアルを基に施設内での勉強会を行い、振り返りを行いながら着実に実践していく。

2. 職員育成

- (1) 自己を組織の一員として自覚し、ポジションにおける職務が的確に行えることを目的として、個別職員保育計画ファイルを基に職員一人一人が常に確認や振り返りを行う。
- (2) 年齢・性別・経験・能力・立場の異なる者同士お互いを認め補い、役割分担する事によってチームワークやメンバーシップ能力を高めていく。
- (3) 職員育成とキャリアアップを目的に、キャリアパス制度を引き続き実施する。職務要件の明記・自己評価・他者による人事評価制度を継続する。メンタル面のセルフチェックリスト、職員との面談からコンディションを明確に把握し、職務の見直しや改善、体調面・精神面の不調がないかなど多面的に確認を続け働きやすい環境づくりを行っていく。また一人一人がそれぞれの職種の専門性とビジネスマナーを磨き、社会人としてのスキルアップへの意欲と仕事への誇りが持てるような職場を目指していく。
- (4) 内外の研修計画に沿い、知識と技能を習得していく。外部の研修については、オンライン研修も活用していく。(別紙1 年間研修計画)
- (5) 令和8年度は、職員処遇改善費Ⅰ・Ⅱ・Ⅲが、一本化された。国や市からの情報を元に、適宜対応し賃金改善に努める。また、人事院勧告分(保育委託費に組み込まれて支払われる)については、これまで一時金として支給していたが、一部を本俸、時給に組み込み、残りについては一時金として支給する。

3. 防災・安全対策

- (1) 今年度も引き続き様々な感染症の対策を行う。
- (2) 年間計画に基づき、最低月1回の防災訓練(火災・地震・津波・不審者等)を行い非常時に備える。また救命講習などの研修も計画的に取り入れていく。

- (3) 食事中、睡眠時、水遊び中など事故が起こりやすい場面については特に留意し対応する。また、ヒヤリハットやケガ報告等については必要に応じて情報共有し、より安全・安心できる環境づくりに努める。

4. 情報公開と個人情報の保護

- (1) 公費で運営する社会福祉法人として、必要な情報開示を行う。(保育園基本情報・収支決算書を法人 HP へ掲載・重要事項説明書の義務付けと HP へのアップ)
- (2) 保育についてのご意見やアンケートを取り、それに対する施設からの開示と回答を、定期的に保護者へ配布していく。
- (3) 第三者委員会については、コロナを始めとする感染症の状況を踏まえながら開催し、必要に応じて情報の開示のご意見やアドバイスを戴く。
- (4) 子どもやその家庭の個人情報の保護については、重要事項説明の折りに十分に説明する。
- (5) 毎年の新採用研修・職員基本研修に於いて、具体的事例(SNSを含む)を挙げ全職員へ周知徹底していく。

5. 安定した運営の為に

- (1) 常に愛情ある保育・教育と誠実な保護者対応、地域への環境保全を心がけ、地域の評判を得ることにより着実な運営ができるよう努力する。
- (2) 各施設のそれぞれ特色ある行事を行い、子ども達の成長を保護者の方々と共有する。
(別紙2 年間行事計画)
- (3) 児童数の推移と待機児童を把握すると共に、収支の動きも留意し、無駄のない園(所)の運営にあたる。但し、国の基準緩和解除(令和11年度末まで延長)を念頭に置き、計画的に児童数調整を図る。また、事業所については、利用者獲得の為に創意工夫を行う。
(別紙3 園児数推移表)
- (4) 施設運営における多面的な中長期計画を立て、内容についても定期的に検討していく。
(別紙4 中長期計画)
- (5) 『こども家庭庁』の動向やその他の保育情勢にアンテナを張り、適切な時期に適切な事業を展開・縮小できるよう備える。

令和8年度 認定こども園 波除学園 運営方針・事業計画

重点項目

1. 保育・教育・支援の取り組み

(1) 教育・保育の一体化

教育と保育に関する専門性を有する職員が、家庭との緊密な連携の下に、園児一人ひとりの発達過程や生活状況を踏まえた教育及び養護を実践していく。教育的視点と養護的視点を融合させ、子ども主体性を大切にした保育の充実を図る。

(2) 行事の精選と室の向上

行事の目的を再確認し、子ども達の成長につながる内容へと見直しを行う。季節や状況に応じて規模や内容を柔軟に調整し、子どもが無理なく楽しく取り組める行事を進めていく。また、保護者参加の在り方についても検討し、家庭との協働を意識した行事づくりを進めていく。

(3) 特別支援保育の充実

支援の必要な子どもに対し、安心して過ごせる環境を整備するとともに、個別の支援計画に基づいた丁寧な関わりを行う。障がいの有無にかかわらず、共に育ち合う環境づくりを推進する。また、関係機関との連携を強化するとともに、職員研修を通じて専門性の向上を図る。

(4) 防災・防犯対策

年間計画に基づき避難訓練を実施し、災害や不審者対応を想定した実践的な訓練を行う。あわせて、避難経路や対応マニュアルの見直しを行い、職員間の連携体制を強化する。また子ども達が自ら身を守る意識を育み、高めていく。

2. 保護者・地域の子育て支援

(1) 保護者支援

日々の丁寧な声掛けや情報共有を通して信頼関係を深めていく。保育の可視化を意識し、園での子ども様子を積極的に発信する。個別面談や相談体制の充実を図り、安心して相談できる環境を整える。

(2) 地域の子育て支援

未就園児を抱えるご家庭への子育て支援の強化を図るため、園庭開放や子育て支援行事・一時保育・子育て相談を行っていく。

3. 環境整備

老朽化している箇所については、計画的に改修、修繕を行い、保育環境を整え子どもや職員が安心して過ごせるようにする。

4. その他

重点項目

1. 保育・教育・支援の取り組み

(1) こどもまんなか保育の充実

安治川保育園に通う全ての子どもたちが、一人ひとり安心できる居場所が持てるよう保育の質の向上を目指す。また、職員は日々の保育の中で子どもたちの声に丁寧に耳を傾け、安心できる環境のもとで子どもたちが様々なことにチャレンジし自己肯定感を育むことができる場を提供する。

(2) インクルーシブ保育の充実

今年度も支援が必要な子どもたちも、年齢や国籍の異なる子どもたちも多種多様な子どもたちが日々一緒に関わることで互いに違いがあることを認め合い、自然と相手を思いやる気持ちや尊重するという気持ちを育む。また、サポート体制（保健師、心理士相談訪問・大阪市巡回・療育現場との情報交換等）も整え、一人ひとりの育ちを確保していく。

(3) 感染症対策・対応の徹底

園児及び職員の健康と安全を守るため感染症対策の徹底を図る。感染症情報には敏感に対応し、その都度、適した情報収集や対策を心掛け、必要に応じて保護者の方へ注意喚起を行う。

(4) 防災・防犯対策・対応

日頃の訓練の内容は職員間でその都度協議し、より中身のある訓練になるよう進め危機管理意識の向上に努める。また、各年齢に応じた訓練や知識をわかりやすく伝え、子どもたち一人ひとりの防災への意識を高めていく。

(5) ICT活用の推進

ICTを効果的に活用し、保育の質の向上及び業務の効率化を図る。また、個人情報の管理を徹底した上で、保育内容や子どもの様子を『見える化』し、保護者の方へわかりやすく丁寧な情報提供を行う。

2. 保護者・地域の子育て支援

(1) 保護者への支援

常に親切であたたかい対応を心掛ける中で信頼関係を築き、子どもたちの成長や課題、また、小さな育ちを保護者、保育園で共有し大切にしていく。

(2) 地域の子育て支援

園庭開放では、より多くの地域の親子の方に園の様子を感じていただく機会を設け、子育ての悩みに耳を傾け、交流の機会を提供し、地域の未就園児の子どもたちの育ちを支える場としての役割を果たす。

3. 環境整備

老朽化してきている箇所から計画的に改修、修繕を行い、子どもたち、職員が心地よく過ごせる環境を整える。

4. その他

職員間での対話を大切にし、経験や年齢が異なる職員もお互いを認め合い、日常的に支え合い働きがいのある職場を目指す。

重点項目

1. 保育・教育・支援の取り組み

- (1) 年齢よりも幼いと感じる今の4.5歳児を、遊びの中で育てていく
 - ・集中する力を育てる…好きなこと、やりたいことを自分の力見つけて、最後までやり遂げる力を身につけていく。
 - ・社会性を育てる…遊びを通して、順番があること、ルールを守ることなどが身に付く。
 - ・心の強さを育てる…悔しさや怒りをどう収めるかなど、感情のコントロールが出来る力を身に付けていく
- (2) 自分の居場所を見つけて、泣いたり笑ったりの感情を表現し、一人一人に寄り添う保育を心掛けていく。

2. 保護者・地域の子育て支援

- (1) 食事のマナーなど、保育所がやってくれるだけではなく、子どもを真ん中に、保護者も一緒に子どもを育てて行くことを、懇談や保育所だよりなどを通して、目で見える形で伝えて子育て支援を行う。
- (2) 田中保育所の周辺は高齢化が進んでいる為、安定した所庭開放の人数確保は難しい。地域清掃を行うなど、地域貢献を行う。

3. 環境整備

老朽化が進んでいる箇所は、その都度修繕を行う。

4. その他

良いことも悪いことも言い合える雰囲気作りを心掛け、良い職場関係を目指していく。

重点項目

1. 保育・教育・支援の取り組み

- (1) 命を守る保育
子どもの生命を最優先にし、安心して健やかに育つための環境、関わり、体制を整える。
物的環境の安全確保、心と体を守る取り組み、園として命を守る体制づくりに努める。
- (2) インクルーシブ保育の実践
「みんな違ってみんないい」を実践していく。障がい、人種、国籍、個性、生活習慣、年齢、感性や感覚の違いなど、すべてが自分と同じ人はいないことを前提に、誰もが安心して自己発揮できる環境作りを行う。
- (3) 職員研修の充実
職員自身が「みんな違ってみんないい」という意識を持ち、保育や保護者対応、職員間の連携が取れるような意識改革を行っていく。

2. 保護者・地域の子育て支援

- (1) 保護者支援
保護者の気持ちや状況を察し、寄り添い、保育園が保護者にとっても安心できる場所となるように関係を作っていく。
子どもの育ちを、良いことも困りごとも含めて共有しながら、共に子どもにとっての最善の働きかけを考えていける関係性を持続していく。
- (2) 地域の子育て支援
園庭開放は、子どもたちが安全な見守りの中で楽しく遊べるようにすると共に、在園児と触れ合うことで、新たな遊び等が経験できる場所としていく。また、保護者同士の交流を持ち、気軽に保育士に相談できる場所であることも知ってもらえるようにする。

3. 環境整備

老朽化が進み、園内に危険箇所が増加している。優先順位を明確にしながら、順次改修・修繕を行い、環境を整えていく。

4. その他

障がいをもった職員が入職予定。ここでも、「みんな違ってみんないい」が当たり前実践される、すべての人に居心地の良い職場を目指していく。

令和8年度 事業所 運営方針・事業計画

施設別重点項目・目標

1. アフタースクールKIDS

- (1) 『KIDSなみよけ』 新1年生3名入所予定。3名とも法人内保育園からの移動。波除小学校に進学の大半がいきいきを利用している。法人内からの流れを確立すると同時に外部への宣伝方法を模索する。また『料金に見合った活動内容にできているか?』など話し合っていきたい。
- (2) 『KIDSかわぐち』 新1年生8名入所予定。利用児童が定員最大の46名になり、空き待ちの方も2名いる状況である。人数が増えた分、よりいっそう安全面に気を付けていき、今後も子ども達が楽しく過ごせる環境作りを行い、安定した運営が出来るようにしていきたい。

2. 病児保育室

- (1) 例年、前期の利用者数が激減する月が多く、後期の利用率が高くなる傾向である。その年により流行する感染症が違っており予測は立てにくい、日々の情勢やサーベイランス等にアンテナを張り状況を把握する。いつでも受け入れ可能の準備を行っていく。
今年度も新規の園や周辺マンションにパンフレットを配布し周知をすることで、利用率UPを図る。
- (2) 直接雇用看護師が離職の無いよう、日々のコミュニケーションをしっかりと取ると共に、働きやすい環境を整えていく。
子ども達が穏やかに体を休める場所となり、保護者が安心して預けられる施設となるよう、寄り添った保育看護に取り組んでいく。

3. つどいの広場

こども青少年局より委託され、開設10年目を迎える。今年度も8所会議や地域のイベントに参加し、地域と連携して子育て世帯に安心安全に過ごしていただける場所づくりに努める。
昨年度は、特に保育園入園者が多くみられ、保育園入園前の利用者が減少している。利用者確保するため、0歳児・1歳児がより利用しやすいようにイベント内容を考えると共にスペースを整え、玩具や備品を充実させていきたい。

4. 吹田市留守家庭育成室

- (1) 『藤白台育成室』
吹田市より受託して9年目を迎える。地域の新築マンション建設、子育て世帯の増加により、令和7年度中に5クラスから6クラスへ増室する予定であったが、年間通して定員ギリギリで推移したため増室せずに終えた。令和8年度は6クラスへ増室となる。それに伴い人材確保とクラスのリーダーとなる人材育成、職員のスタッフ間のより強固な連携が必

要である。

人間力のある児童の育成を目指し、ある程度の規律を大切にしつつ、児童が主体的に安心して過ごせるようにする。また、イベントなどは児童の実態に応じて無理なく行い、体験を通して成長につなげられるように進めていく。そして、保護者が安心して預けることが出来る放課後児童クラブを目指す。

(2) 『山二育成室』

吹田市より受託を受け4年目を迎える。利用人数は令和7年度と変更のない予定。

吹田市放課後子ども育成課とも連携を図りながら、職員の連携や非常時の対応に留意し、安定した運営を目指す。

新1年生に要配慮児童(重症疾患)が入室する為、吹田市育成課・育成室・保護者と連携を密に取り、本児にとって居心地の良い場所になるようにする。

山二育成室ならではのイベントなど日々充実した放課後活動を提供すると共に、子ども達の居場所作りを行う。引き続き『児童主体型の育成支援』を中心に、児童が安心して過ごせるように職員一丸となり育成支援に努める。

テーマ	内容	主催	出席者			
			管理職	一般職員上級	一般職員中級	一般職員初級
新任	新任研修	大阪市私立保育連盟 ちやいんどネット 他				○
	フォローアップ					○
	絵本読み聞かせ					○
主任	主任研修	大阪市私立保育連盟 ちやいんどネット こども青少年局子育て支援部 他		○		
	人材育成・環境づくり			○		
	リーダーの役割			○		
施設長	所長・園長研修	大阪市私立保育連盟 ちやいんどネット こども青少年局子育て支援部 西・西南ブロック園長会 大阪市社会福祉研修・情報センター 大阪労働基準連合会 他	○	○		
	若手が育つ為のリーダーづくり		○	○		
	働きやすい環境		○			
	ソーシャルワーク研修		○			
	働き方改革		○			
	健康管理		○	○		
	メンタルヘルス不調者と 企画対応		○	○		
スキルアップ	各種キャリアアップ研修	大阪市私立保育連盟 ちやいんどネット 全日本幼児教育連盟 榎エルステップス 他		○	○	○
	乳児・幼児保育研修				○	○
	クラスづくり				○	○
	表現(音楽・描画・造形)				○	○
	マーチング・和太鼓研修		○	○		
	運動あそび・運動会種目研修			○	○	
	保育の質を高める			○	○	
	カウンセリング研修			○	○	
	コミュニケーションスキルアップ			○	○	
	子育て支援者の役割			○	○	
保護者・地域	保護者・地域子育て支援	大阪市私立保育連盟 ちやいんどネット こども青少年局子育て支援部 他		○	○	
	相談援助技術			○	○	
	家庭支援			○	○	
	子育て支援			○	○	
人権	人権研修	大阪市私立保育連盟 ちやいんどネット こども青少年局子育て支援部 大阪社会事業施設協議会 大阪労働基準連合会 他	○	○		
	児童虐待		○	○	○	○
	ハラスメント関係		○			
	大阪市社会福祉施設職員 人権研修		○	○	○	
放課後児童	放課後児童支援研修	大阪市こども青少年局		○	○	○
障がい共生	障がいのある子と共に育つ保育	大阪市私立保育連盟 ちやいんどネット 他		○	○	
	障がい児保育研修			○	○	○
	発達障害の理解と支援			○	○	
	保護者への支援			○	○	○
保健	子どもの健康研修	大阪市私立保育連盟 こども青少年局子育て支援部 港区・西区保健協議会 他		○	○	
	小児保健研修			○	○	
	食物アレルギー			○	○	○
	食育研修(乳児・幼児)			○	○	
	衛生管理研修			○	○	
危機管理 事故対応	保育園における事故予防・ 安全対策	大阪市私立保育連盟 ちやいんどネット大阪 大阪市社会福祉研修 日本保育園保健協議会 他	○	○		
	防災		○	○		
	安全管理研修会		○	○	○	
	リスクマネジメント研修		○	○		
認定こども園	認定こども園の現状と課題	大阪市私立保育連盟認定こども園部会 大阪市こども青少年局 全国認定こども園協会		○	○	○
	幼保連携認定こども園教育・ 保育要領			○		
キャリアアップ	各種キャリアアップ研修	各種団体		○	○	○

KIDSなみよけ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1年生	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
2年生	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
3年生	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84
4年生	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6年生	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
合計	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	192
定員	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	

KIDSかわぐち

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1年生	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	16	16	182
2年生	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
3年生	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
4年生	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	66
5年生	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	42
6年生	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2	25
合計	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	43	42	495
定員	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	

藤白台育成室

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1年生	73	73	73	73	73	73	73	73	73	73	73	73	876
2年生	69	69	69	69	69	69	69	69	69	69	69	69	828
3年生	61	61	61	61	61	61	61	61	61	61	61	61	732
4年生	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	528
5年生	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
合計	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	248	2976
定員	270	270	270	270	270	270	270	270	270	270	270	270	3240

山二育成室

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1年生	62	62	62	62	62	61	61	60	60	60	60	60	732
2年生	57	57	57	57	57	55	55	54	54	54	54	54	665
3年生	60	60	60	60	60	58	58	57	57	57	57	57	701
4年生	49	49	49	49	49	46	46	44	44	44	44	44	557
合計	228	228	228	228	228	220	220	215	215	215	215	215	2655
定員	270	270	270	270	270	270	270	270	270	270	270	270	3240

病児保育室

び～よん													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳～12歳	18	18	18	20	18	20	20	20	25	23	25	25	250

淳風会 子育て支援事業部 中期計画 一覧表

別紙4-②
令和8年2月1日

番号	施設名	項目	2024年度作業		2025年度作業		2025年度作業		2026年度作業		備考		
			内訳	見積書	内訳	見積書	内訳	見積書	内訳	見積書			
			詳細 理由・状況・補足説明など	概算見積額 2023年度	詳細 理由・状況・補足説明など	概算見積額 2023年度	詳細 理由・状況・補足説明など	概算見積額 2023年度	詳細 理由・状況・補足説明など	概算見積額 2023年度			
6	KTDS なみよけ かわぐち	保育充実											
		事業展開											
		建物・設備											
7	藤白台育成室	保育充実	玩具購入・ 座卓追加 購入在籍 児童数増加 (歳次定員 225名)	150,000	座卓は吹田市備品 支給以外の追加分 (5台分)	150,000	追加4台 破損入れ替え5台	150,000		150,000			
		事業展開											
		建物・設備											
8	山二育成室	保育充実											
		事業展開											
		建物・設備											
9	病児保育 びーよんルーム	保育充実											
		事業展開											
		建物・設備											
10	びよびよアイランド	保育充実											
		事業展開											
		建物・設備											
	合計			17,850,000		17,850,000		20,959,120		20,959,120	18,746,054	14,600,000	3,000,000